

校友会会報 No.29

《ご挨拶》

校友会 会長 井田 康子 (大2回・ピアノ)

今年は、56年ぶりの東京オリンピックが開催されるはずでしたが、新型コロナウイルスが日々報道される年になっており、私たちの生活様式も変わってまいりました。

「校友会総会」を開催中止とし、書面による決議を行うことは校友会の活動において、初めての経験でした。大学ではオンライン授業が行われ、リモートレッスンも行われています。世界的に経済的・精神的な被害に侵され、その影響が続くこのような状況の中でも、校友会を通じて皆様との繋がりをより深めていきたいと考えております。

「校友会ホームページ」を充実させ、若い会員の皆様とも交流を持てるよう情報を発信してまいります。

会員の皆様にはより一層のご支援・ご協力を賜りますようお願いいたします。

東京音楽大学校友会 第17回総会報告

- 【開催日】 2020年5月31日(日)
- 【場所】 東京音楽大学 中目黒・代官山キャンパス
- 【正会員数】 1,463名
- 【委任状数】 836通
- 【出席者】 書面表決者(全国各支部長30名)
- 【集計者】 議長: 谷田部敬一 (大9回・打楽器)
本部総務担当役員: 永瀬 文子 (大16回・音楽教育)
同: 久江由美子 (大21回・音楽教育)
- 【議案】 1. 2019年度 活動報告の件
2. 2019年度 決算報告の件
3. 2019年度 監査報告の件
4. 2020年度 活動計画案承認の件
5. 2020年度 予算案承認の件
6. 会長改選の件

◆ 報 告 ◆

今年度の総会は、新型コロナウイルス感染拡大のため、校友会会則(第4章総会 第20条第5項)に基づき、全国各支部長による書面決議を行いました。その結果、全ての議案について、過半数の賛成を以って可決されました。

なお、活動報告、活動計画、各支部主催演奏会は校友会ホームページに掲載しています。

校友会連絡先

メール: info@tcm-koyukai.com
電話: 090-5480-9741

※住所・氏名など変更の場合は、上記までお知らせください。

芸術祭「校友会コンサート」について

2020年度の芸術祭には参加いたしません。

校友会は皆様の年会費で運営しております。
コンビニエンスストア専用払込票で、
お早めに今年度分をお振込みください。

大学の都合により、
「音大ジャーナル」「音大カレンダー」は、
現在、制作していません。
大学の情報はホームページをご覧ください。

自転車の音を御存じですか？

山本 謙 (大7回・ファゴット)

人は、器具を用いなければ、時速40km以上で移動出来ませんが、スポーツ用自転車なら、誰でも平地で時速50km超えが容易です。

本学在学中に、故三田平八郎先生の合宿「楽器を持たない、音楽の話をしてはならない」に参加し、他校の学生や卒業生が集い、独式のキャンプの基本を学びました。また、千葉市の中学教員時代に、群馬県水上町のキャンプ場「高原千葉村」で自然教室を行い、せつかくの大自然をもっと楽しく利用できないかと考え、ハイキングコース、歴史、動植物などの調査のため、ある林道を登っていたとき、マウンテンバイクの青年と出会いました。千葉に戻り彼の友人でロードレーサーの方々と知り合い、試してみると少ない力でも高速になり、風音の爽快さを感じ、私もロードに乗ることになりました。

ロードレーサーとなり初めて高速を出したとき、爽やかな風音を快く感じ『あれ、何の音だろう？』注意深く分析したら低音から高音まで、バランス良く多くの倍音を含むことに気がしました。この音色は器楽で言うと、名器の要素を持っていると思いました。

ロードレース大会では、百人以上の方が、集団で時速60km以上の速度で走ることがあります。観戦だけでも「血が騒ぐ感じ」になります。地響きのするタイヤと地面の接する音より、息遣い・体が風を切る・空気をかき回すスポーク・チェーンの音が聴こえて、大編成のオーケストラの大合奏に劣らないと感じ『あれ、今音楽やってるぞ』。

皆さんも自転車運動(サイクリスポート)を楽しみませんか？



「完全なる調和」は、私のテーマです。

平澤 真希 (大24回・ピアノ)

卒業後、音楽祭で出会ったスメンジャンカ先生の薦めで、ショパン音楽院(現大学)に留学し、ポーランドに16年滞在しました。1999年にカトリック総本山で体験したあること…思えば、この表現方法を、ずっと追求しているような気がします。音楽を通して、様々な国に行きました。日本人に両親を殺されてしまった、フィリピンの指揮者と共演したこともあります。音楽は、言葉や文化の違いも、政治的な摩擦も超え、勇気や希望の光を見出すことができます。帰国後、クラシック音楽と並行して、自然に魅せられ作曲を始めました。震災後に作った「祈り」という曲に、詩と絵がついて絵本になりました。今年9月1日に至光社より「いのり」が出版されました。

各地で震災が相次ぐ中、自然と共存する生き方を、地球規模で見つめ直す時ではないでしょうか。最近ではコロナ禍の中、新たな試みとして、自然と人の調和を願って、「ネイチャーピアノ〜森のピアノ」の動画を作成しました。標高1700メートルの森にピアノを持ち込んで自然とピアノの共演を録音撮影しました。<https://www.culture.nagano.jp/artists/>やYouTubeで動画が配信されています。スタジオ録音に自然音を重ねたのではなく、その場その時の一期一会の自然が織りなす「完全なる調和」との共演を目指しました。「ネイチャーピアノ〜森のピアノ」でご検索ください。



Hirazawa Maki

校友会の皆様、メルハバ(トルコ語のこんにちは)。

平野 幸世 (大42回・ヴィオラ)

私がビルケントシンフォニーオーケストラのヴィオラ副主席として入団してから早や1年が過ぎようとしています。私がこのオーケストラに入団したきっかけは、小学生から中学生にかけて海外で生活したことにあると思います。その時、インドのオーケストラで演奏し、色々な国の人と知り合ったことがとても楽しかった思い出となっていました。昨年、たまたま海外のオーケストラを検索してところ、このオーケストラの応募があったため、チャレンジしました。このオーケストラはトルコのみならず12カ国の演奏家を含む総勢120名の編成となっており、国際的指揮者やソリスト、合唱団を迎えて年間80回に及ぶコンサートを行っています。コンサートの曲目は古典から現代曲に至るまで幅広く、様々な曲にチャレンジできる喜びを感じるとともに自らも大いに勉強させてもらっています。本オーケストラの団員は、大学の教員も兼務することになっており、私もプロの音楽家を目指す学生を指導しています。学生は小学生から大学院生まで幅広いですが、皆とても熱心です。

また、団員の処遇は手厚く、私は広大な大学の敷地内にある広めの2LDKの宿舎で生活していますが、構内にはスーパーマーケットやジムもあり、安全な環境のもと、楽しく快適な生活を送っています。世界3大料理の一つと言われるトルコ料理を是非食べにいらしてください。美味しいですよ！



Hirano Yukiyo